

令和3・4年度 文部科学省指定「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」
熊本県教育委員会指定・甲佐町教育委員会指定「道德教育研究推進校事業」



自分事として考え、
共に学び合う
授業づくりの工夫



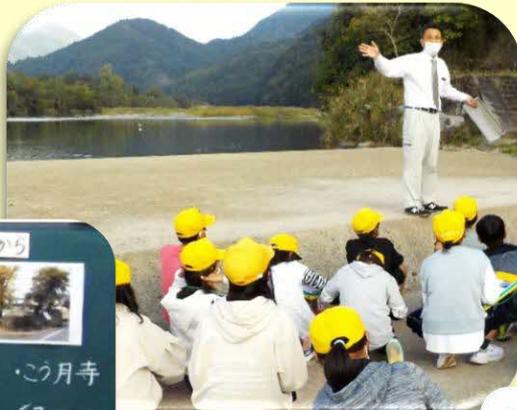
本校マスコットキャラクター
【たっぴー】



研究主題

自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ 道德教育の創造

～自分事として考え、共に学び合う道德科の授業づくりを通して～



道德教育を軸とした
カリキュラム・マネジメント
の充実



体験活動や各教科等
との関連の工夫

本校は、標記の指定を受け研究に取り組んでいます。研究1年目の今年度は、「体験活動や各教科等と道德教育をつなぐカリキュラム・マネジメントの充実」と「自分事として考え、共に学び合う道德科の授業改善」を中心に、授業実践を積み重ねてきました。まだまだ試行錯誤の段階ですが、子供の姿から少しずつ手応えを感じているところです。

本リーフレットは、今年度の研究内容の概要をまとめています。ぜひご覧いただき、ご指導ご助言をいただきますようお願い申し上げます。



令和4年1月25日(火)

甲佐町立龍野小学校

学校教育目標

ふるさとに、笑顔広げる 龍野っ子を育てる

本校の道徳教育の重点目標

○「なりたい自分」を目指して粘り強く取り組み、主体的に行動する子供を育む

【善悪の判断, 自律, 自由と責任】

○集団の中で自分の役割を自覚し、協力し合って楽しい学級や学校をつくろうとする子供を育む

【よりよい学校生活, 集団生活の充実】

○人の気持ちや立場を理解し、友達と助け合って生活できる子供を育む

【友情, 信頼】

研究主題

自己を見つめ、よりよい生き方につなぐ
道徳教育の創造

～自分事として考え、共に学び合う道徳科の授業づくりを通して～



【仮説】計画的・発展的な教育活動のもと、児童が自分事として考え、共に学び合うような道徳科の授業づくりや日常活動の工夫を行えば、自己を見つめ、よりよい生き方につながるような道徳教育の充実を図ることができるだろう

【手立て1】道徳教育を軸としたカリキュラム・マネジメントの充実

- ①「道徳カリキュラム・マネジメント表」の作成と見直し
- ②「道徳カリキュラム・マネジメント表」を基にした教育活動の展開

【手立て2】児童が自分事として考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

- ①自分事として捉える導入の工夫
- ②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫
- ③互いの考えをつなぐ対話活動の工夫
- ④自己を見つめる振り返りの工夫

【手立て3】道徳性を養う体験活動や各教科等との関連の工夫

- ①体験活動、行事等と道徳的価値をつなぐ工夫
- ②「なりたい自分」を軸にした学校総体の取組
- ③異学年とのつながりを深める取組の工夫

学校総体でつなぐ道徳教育

家庭・地域とつなぐ

GTの活用

学び合う教師集団

幼保小中連携

今日的課題

児童の実態

地域社会の要請

【手立て2】児童が自分事として考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫

本時のねらい

・三つの視点を
基に、本時の
ねらいを設定する

内容
項目

教材

児童の
実態

学習
過程

児童の
意識

【大切にしていきたい項目】①目指す児童の姿 ②主題に迫る学習課題 ③本時で働かせる見方・考え方

①自分事として捉える導入の工夫

導
入

★児童の実態を生かした導入の工夫

- ・アンケート等の活用
- ・体験活動の写真等の活用

★教材を生かした導入の工夫

- ・偉人の紹介(年表活用等)
- ・教科等と関連した話題提示

めあての提示(価値への方向付け・自分事として捉える)

※授業によっては、他の学習場面で提示する。

自
分

教
材

自
分

②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

教材提示

基本
発問

【問題意識をもつ発問】

- ・心に残ったことやもっと考えたいことはありませんか。
- ・考えたい場面はどこですか。

多面的・多角的
に考える

主
発問

【4つの発問パターン】*授業場面で使い分ける

【共感的な発問】

- ・〇〇は今どんな気持ちだろう。
- ・〇〇はどんな思いで～をしているのか。
- ・〇〇の心の中はどんなだろう。

【分析的な発問】

- ・□□(価値)にはどんな意味があるのだろう。
- ・〇〇がそうしたのはなぜだろう。
- ・〇〇の行いを支えたものは何か。

展
開

自分事として
考える

基本
発問

書く活動の位置付け(理由も問う)

【自分と重ねる発問】

- ・自分が〇〇ならどうするか。
- ・自分は〇〇のようにできるか。
- ・自分ならそこで何と言うだろう。

【価値を問う発問】

- ・〇〇のしたこと(生き方)をどう思うか。
- ・この□□(価値)をどう考えるか。

【永田 繁雄氏「発問の立ち位置」を参考に整理】

③互いの考えをつなぐ対話活動の工夫

【対話を広げるポイント】【教師のコーディネート】【教具の工夫】

(友達の見えをつなぐ発表)

- ・〇〇さんとにいて
- ・〇〇さんと少しちがって

(児童の考えをつなぐ発問)

- ・〇〇さんと同じようなことはない?
- ・〇〇さんが言った意味は?

学習形態

- ・ペア
- ・グループ
- ・全体

教具の工夫: 円盤カード、心情メーター、ネームカードの活用

④自己を見つめる振り返りの工夫

終
末

【振り返りの視点】

- ①今までは ②今日学んで ③これから

【振り返りの発問】

- ・今日学んだ中で自分が一番大切にしたいことは何ですか?

【実践意欲につなぐ終末の工夫例】

- 教師の説話
- 児童の姿から→アンケート、日記、写真
- 一般化につなぐ→ことわざ、新聞記事、詩、本など
- ゲストティーチャーの活用

気
付
く

考
え
る
・
広
げ
る

見
つ
め
る
・
つ
な
げ
る

3年生 「どんどん橋のできごと」

出典「小学どうとく 生きる力 3年(日本文教出版)」

※目指す児童の姿、主題に迫る学習課題、本時で働かせる見方・考え方については、学習構想案に記載(資料集参考)

【本時のねらい】迷いながらも友達に誘われるままに行動した結果、壊れてしまった傘を見つける「ぼく」の気持ちを考えるを通して、周囲の言動やその場の感情に流されずに、よく考えて行動しようとする心情を育てる。

教材

児童の実態

内容項目

【節度、節制】

集団意識が芽生え、友達と行動することが増えた。一方、してはいけないと分かっているが、周囲の言動に流され、自分の思うままに行動することがある。

学習過程

気付く

考える
広げる

見つめる・つなげる

学習活動(・児童の反応)

教師の発問

支援(授業改善の視点)

1 自分の生活を振り返る。

しなければよかったと思ったことはありませんか。

- ・友だちとけんかをしてしまった。
- ・物を壊してしまった。



【アンケートの活用】自分事として考えることができるよう、これまでの生活を振り返った。

【めあて】しなければよかったと思う心について考えよう。

2 教材を聞き、話し合う。

みんなは、「ぼく」の気持ちを考えながら聞きましょう。

基本発問

話を聞いた感想やみんなと考えたい場面はどこですか。

- ・買ってもらった傘がボロボロになってかわいそう。
- ・ただしくんが「いやだ」と言ったのはよかった。
- ・「ぼく」は後悔してるだろうと思った。



【問題意識をもつ教材提示の工夫】道徳的価値に迫ることができるようにするため話を聞く視点を示した。

基本発問

「ぼく」は、傘を入れるかどうか迷っています。その気持ちを「円盤カード」で表してみましょう。【共感的な発問】

(ペア→全体)

- ・傘が壊れなかったら楽しいかもしれないけど、壊れるかもしれないから迷う。
- ・私は絶対入れません。物は大切にしくちゃいけない。



【対話活動の工夫】考えの視覚化を図るため、円盤カードを活用した。さらに、自分の考えを明確にし、他者との相違点に気付く手立てとすることで、活発なやり取りを促すようにした。

主発問

なぜ「ぼく」は、ボロボロになった傘をじっと見ていたのだろう。

【分析的な発問】

- ・ただしくんみたいに「いやだ」と言えばよかった。
- ・〇〇ちゃんとしていて、傘を入れたらどうなるか、壊れたらどうなるか、よく考えればよかった。



「しなければよかった」という気持ちを何というか知ってる?

- ・後悔!

【互いの考えをつなぐ工夫】発表する視点や伝え方を教室掲示し意識させることで、友達の考えに関心を持ち、自分の考えと比べて考えを伝え合えるようにした。

基本発問

後悔しないためにはどうしたらいいだろう? 【自分と重ねる発問】

- ・していいことか、悪いことかをよく考える。

3 自分自身を振り返る。

アンケートで答えた「しなければよかったこと」も思い出して振り返りましょう。

- ・(傘を入れないと断った)ただしくんがすごいと思った。自分はたまに悪いことをしてしまうから直したい。
- ・しなければよかったと思うことをゼロにしたい。

このことわざを知っていますか?

「しっばいはせいこうのもと」



【自己を見つめる工夫】内容項目につながることを紹介することで、自分の生活と重ねて考えられるようにした。

児童の意識

自分

教材

自分

これまでの授業実践から

学習
過程

気
付
く

①自分事として捉える導入の工夫

★児童の実態と道徳的価値を関連付けた話題を提示し、自分の生活とのつながりに気付けるようにする

4年「ふるさとのたから 清和文楽」 【伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】

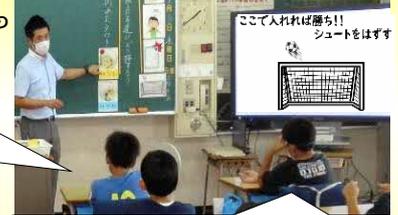
■体験活動での
写真の活用



見学旅行で清和文楽館に行って、どんなことを思いましたか。

5年「折れたタワー」【相互理解, 寛容】

■事前アンケートや事例の提示



友達が失敗したときは何て言おう…。

ぼくもこの前、似たことがあったな。

②問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

★児童がもった気付きや疑問を基にして授業を展開し、自分事として考える意識を高める

1年「にんじんばたけで」【善悪の判断, 自律, 自由と責任】

■問題意識をもつ発問の工夫

■ネームカードの活用



一番心に残ったお話は、どの場面でしたか？

ぼくもにんじんを食べていいかまようから、ここにおこう。



■児童の気付きや感想を授業展開に生かす。

③互いの考えをつなぐ対話活動の工夫

★自分の考えを明確にし、考えを伝え合う学習活動を工夫することで、児童の発言から道徳的価値につなぐ

6年「ブランコ乗りとピエロ」【相互理解, 寛容】

■ネームカードの活用→考えの視覚化



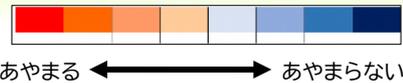
サムの行動を許せますか？許せませんか？その理由は？
【自分と重ねる発問】



ぼくだったら自分勝手なサムを許せないな。

2年「お月さまとコロ」【正直, 誠実】

■心情メーターの活用→互いの考えをつなぐ工夫



自分の気持ちを心情メーターで示し、その理由を相手に伝えられるようにする。

ぼくはあやまります。わけは、大切な友だちだから、仲良くしたい気持ちが大きいからです。



④自己を見つめる振り返りの工夫

★自分の生活とつなげて考えることで自分の納得解を導き出し、道徳的価値の内面化や実践意欲につなぐ

2年「お月さまとコロ」【正直, 誠実】

■授業で考えた「大切な心」の中から、自分に必要な心を考える



【私があやまるときに大切な心は】
正直にあやまる心です。わけは、正直にあやまったら、ゆるしてくれたからです。

5年「折れたタワー」【相互理解, 寛容】

■児童の作文の紹介→自分事として考える



児童の作文を紹介する様子

(作文から)「去年と比べて今年の当番決めでは、希望通りにならなくても相手のことを考えて声をかける人が増えました…」

考
え
る
.
広
げ
る

見
つ
め
る
.
つ
な
げ
る

【手立て3】 道徳性を養う体験活動や各教科等との関連の工夫

①体験活動、行事等と道徳的価値をつなぐ工夫

運動会との関連 【よりよい学校生活、集団生活の充実】

★体育主任による各学年のめあて発表 → ★代表委員会でのスローガン決め → ★児童会によるスローガン発表



【低】さいごまで
力いっぱいがんばる
【中】仲間 【高】挑戦

運動会に向けて、めあてを
意識して取り組みましょう。



各学年の代表者による代表委員会の様子



一人一人が全力をつくす
運動会にしましょう。

★運動会に向けた
「草取り活動」の
写真を活用した授業



4年「ぼくの草とり体験」【勤労、公共の精神】



★全体練習での団長による
めあての提示と振り返り

今日めあては「自分で
考えて行動する」です。

②「なりたい自分」を軸にした学校総体の取組

全校集会「龍野ドラゴンボールをつかもう」【善悪の判断、自律、自由と責任】

★新年度の全校集会の実施
「なりたい自分について考えよう」



「なりたい自分」に近づくため、7つの
龍野ドラゴンボールをゲットしよう。



★児童会との連携「龍野の星」の取組

6月「『言玉(ことば玉)』をゲットしよう」
→友達のよさをふりかえる



つまたくふ
ましたくわ
。さんふ
言集言
玉まり
ゲ

11月「『掃除玉』をゲットしよう」
→写真や動画で紹介し合う



10月「『時間玉』をゲットしよう」
→意欲を高める掲示の工夫



児童玄関の掲示の様子

③異学年とのつながりを深める取組の工夫

★「運動場の草とりボランティア」について体育委員会からの提案



運動会に向けて、みんなで協力し
運動場の草取りをしましょう。



草取りだけじゃ
なく、他にも
できることは
ないかな?



【4年生から3年生へ】
「あついで、みんなのために運動
場を掃除してくれてありがとう。」
「ダンスやリレーで力を合わせて
楽しい運動会にしようね。」

学校総体でつなぐ道徳教育

家庭・地域とつなぐ

★道徳通信の発行

道徳通信 かけ橋

学校・家庭・地域の心のかけ橋

龍野小学校
令和3年10月14日
NO. 2
文責:校長 大江 祥子

道徳科の授業紹介 第3学期「よく考えて、どんな行動の出来る事」

学校の始業式、どんどこ始まるまで語り合っているのを覚えています。語り合っている中で、道徳科の授業が始まりました。道徳科の授業は、自分自身の考えをいかに表現し、相手に伝えることが大切です。また、互いの考えを聞き、相手の考えを尊重することが大切です。道徳科の授業は、自分自身の考えをいかに表現し、相手に伝えることが大切です。また、互いの考えを聞き、相手の考えを尊重することが大切です。



幼・保、小、中連携

★甲佐中学校との合同あいさつ運動



★1年生:竜野保育園との交流

じゃがいもを頂いたお礼に手紙を送る。



じゃがいもありがとうございました。

★5年生:新1年生との交流会



学び合う教師集団

★スーパーティーチャー等による研修の充実



★事前研での模擬授業の様子



地域ボランティア、GTの方々との交流

★4年生:国語「ドラパット隊の皆さんへ手紙を書こう」



いつも暑い中、見守ってくださってありがとうございます。

★5年生:道徳【相互理解,寛容】「人生の金メダル」



GTとして、オリンピック強化選手だった保護者の方を招き、話を伺う。

今年度の取組を経て

【○成果、●課題】

1. 道徳教育を軸としたカリキュラム・マネジメントの充実

○「道徳カリキュラム・マネジメント表」の作成と活用を行ったことで、各教科等や行事と、道徳科の授業を関連付けて考える教師の意識が高まった。さらに、道徳的価値を踏まえて教師が声掛けをしたり関わったりしていくことで、児童の意識の変容につながった。

2. 授業づくりの工夫

○導入や発問の工夫を行ったことは、児童が自分事として考えることに有効だった。さらに、多様な学習活動を仕組むことで、一人一人が自分の考えをもち、他者に伝える姿が見られた。
●振り返りで児童が自分の生活と重ねて考えることに課題が残った。実践意欲につなぐ工夫が必要である。

3. 体験活動や各教科等との関連の工夫

○行事や体験活動に向けて各学年のめあてを設定しオリエンテーションを行ったことにより、教師の共通理解ができ、児童への関わりに生かすことにつながった。また活動に取り組む児童の意欲付けにつながった。



竹鉄砲の使い方を教わる児童

【山編の感想:児童の作文から】
さとモンプロジェクトの方々、六年間ありがとうございました。毎年とても楽しかった理由があります。一つ目は、花や木など、色々な植物にふれあえたからです。学校ではあまりこういうふれあいが無いのでとても楽しかったです。二つ目は、みんなが「次、ここだよ。」などと、声をかけ合っていたからです。去年は指示をされる側だったので、今年は最高学年として、しっかりと周りを見て行動しました。三つ目は、しっかりと挨拶を言っていたからです。教えてもらったときなどは必ず「ありがとうございます。」と言いました。今年で最後の山編だったので良かったです。

次年度の方向性

- ・道徳的価値を位置付けた「道徳カリキュラム・マネジメント表」の作成と活用は、児童の実践意欲につなぐ有効な手立てとなった。今後も、児童の実態を基にして年間を見通した計画を立てるとともに、学年の系統性を踏まえた実践につないでいく。
- ・体験活動や各教科等において、道徳的価値を関連付ける取組を今後も充実させ、学校総体として取り組んでいく。
- ・授業づくりでは、道徳科の評価についての実践が十分でなかった。今年度の学習活動の工夫を引き継ぐとともに、評価を意識した授業づくりの充実を図っていく必要がある。